

◆ 設立 15 周年記念座談会 ◆

園芸福祉ふくおかネット設立当初から、意欲的に活動を続けていらっしゃる先輩会員青崎 安孝さん、山崎 博子さん、黒瀬 恵子さんの3人に設立時のご苦労された話や楽しい思い出など、懐かしいお話しに花を咲かせていただきました。



山崎 博子さん

Profile

入会/平成 16 年(1 期生)
平成 18 年 副代表・事務局長
平成 19 年～20 年 事務局長
平成 21 年～25 年 代表
平成 26 年～現在 相談役

花や植物に関心があり、園芸福祉に魅力を感じる人たちが集まる園芸福祉ふくおかネットですが、設立当時のことを聞かせてください。

青崎: 退職後に園芸療法を学び、地域で森や植物などのボランティア活動をしていた時に、初級園芸福祉養成講座のことを知り受講しました。受講後は古賀と福岡を行ったり来たりしながら設立準備に向けて忙しく動きました。あの頃はみんな若くて情熱がみなぎってましたね(笑)。

黒瀬: 花好きパワーが一致団結して、平成 16 年に園芸福祉ふくおかネットを設立し、初代代表の大役を井本 耕太郎さんが担って下さいました。第 5 回 園芸福祉全国大会 in ふくおかの開催や第 22 回全国都市緑化ふくおかフェア(アイランド花どんたく)で自主企画の苔玉教室を開催するなど、楽しくも慌ただしい思い出に残る日々でした。

黒瀬: 苔玉教室のスタッフには多くの会員の方が参加してくださって、フェア期間中の土・日・祝日を利用して常時 5～6 名のスタッフが朝から夕方まで、1 日に 50 名以上の体験者を受け入れて頑張りました。

山崎: あの頃は手弁当で、ゴーヤの佃煮とかを持ち寄って。

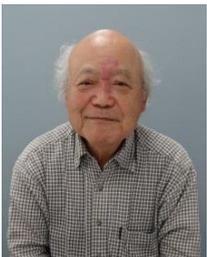
山崎: 営業は古荘さん、呼び込みは川瀬さん、支援学校の先生で手話が得意な会員もいたりして、各々が得意分野を発揮していました。

黒瀬: 田主丸町(久留米市)で苗木生産をしている会員の栗木さんに、こけ玉に使う苔や苗木をお願いして、スタッフにこけ玉の作り方も指導してもらいました。今は亡き苗木生産者の赤司さんも苗を提供するなど協力的でした。

青崎: 花どんたく期間中の「第 5 回 園芸福祉全国大会 in ふくおか」開催は、大変だったのを今でも覚えています。

山崎: 「園芸福祉全国大会」を成功させるために九州がんセンター様に協力をお願いし、施設をお借りして初級園芸福祉養成講座も開きました。

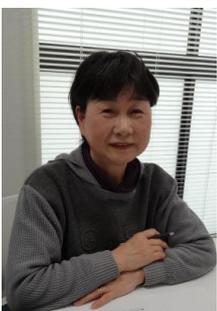
山崎: 平成 22 年にアクロス福岡・円形ホールで開催した第 9 回園芸福祉シンポジウム in 福岡では、一人 5 分間発表の形式を提案して、のちに福岡方式と云われ好評でした。



青崎 安孝さん

Profile

入会/平成 16 年(1 期生)
平成 18 年～25 年 副代表
平成 26 年～現在 相談役



黒瀬 恵子さん

Profile

入会/平成 16 年(1 期生)
平成 18 年～25 年 副代表
平成 26 年～現在

副代表・事務局長

黒瀬: 外からと内からのパワーが一気に集まり進んできました。自分たちの手で初めて開催した初級園芸福祉士養成講座、そして全国大会や緑化フェアでの自主企画、シンポジウム、韓国との交流、みんな良く頑張りましたよね。

皆さんのお話を聞いているだけで、目が回りそうな忙しさですね。では、園芸福祉との出会いでご自身の活動に変化したことはありますか。



黒瀬: 自分の庭だけで楽しんでいた趣味の園芸から、園芸福祉と出会って一步外に出て活動するようになり、世界が大きく広がりました。

青崎: 園芸福祉がどんなものかも知らないまま、初級園芸福祉養成講座を受講して、園芸福



祉ふくおかネットの活動に飛び込み、手さぐり状態で進みながら勉強しました。その中で植物と関わりながらいろいろな人との繋がりもできました。私が住む古賀市のえんがわくらぶで、独り住まいの高齢者に子どもたちがお花を届ける『お花をどうぞ』を10年間活動してきましたが、時代の流れでしょうか、この活動の継続は現在検討

中です。これからも地域と繋がりながら楽しく活動を続けていきたいと思っています。

最後に園芸福祉活動の将来について聞かせてください。



青崎: 活動当初は、古賀市がハーブを育成するビニールハウスの施設を建ててくれました。ここ数年の老朽化に伴い施設の修理をお願いに行ったのですが、予算的に厳しいですねと、一度は断られましたが、再度お願いに行き補修してもらえ

ることになりました。今後ますます深刻化する高齢社会を豊かなものにするためにも、高齢者が花や緑と触れ合いながら余暇を楽しむことができるよう園芸福祉活動に市民と行政が協働できる社会になってほしいです。

山崎: 高齢者施設や支援学校で園芸活動を受け入れているところは、まだまだほんの一部です。医療機関や関係者の方々に、花や植物が持つ不思議な力に関心を持ってほしいと思います。植物の効能や効果。検証・症例実験をしていただき、社会的に園芸福祉活動の重要性を周知してくださることをお願いしたいですね。

黒瀬: 15年前、若葉マークをつけて突っ走って来た私達も、そろそろ、もみじマークが相応しい歳になりつつあります。これからは後継者を育て組織を若返らせて行くこと、そして、より魅力ある組織になるよう考えて行くこと、これまで多くの方が関わり育てて来た「園芸福祉ふくおかネット」が、20周年、30周年を迎えられるよう、より成長していくことを願っています。

苔玉とハンギングバスケット作りの改良を重ねた道のり 黒瀬 恵子



2005 緑化ふくおかフェアこけ玉体験講座の様子

2005年、第22回全国都市緑化ふくおかフェアの開催期間中、土・日・祝日に園芸福祉の庭で来場者を対象に苔玉講座を行い、1,000名以上の方に体験していただきました。この苔玉講座は園芸福祉ふくおかネットにとって記念すべき初めての体験講座で、多くの会員がスタッフとして参加し、フェアが終わる頃には自ら「苔玉は園芸福祉ふくおかネットの十八番」と、言うまでになりました。

スタッフの間では、準備するケト土の大きさや糸の長さは「このくらい」で通用していましたし、その後のイベントでも何も問題ありませんでした。しかし、そんなやり方が通用しなくなった時がありました。特別支援学校の生徒さんに苔玉づくりを授業の中で指導させていただいた時です。生徒さんには、このくらいと言う「適量」が通用しません。「どう伝えれば分かってもらえるだろうか」と考えた末、ケト土は耳たぶの硬さに練ったものを130g、糸は2.5mなど、計量化すれば良いことに気がきました。作り方も、障がいがあるのでどう伝えれば分かってもらえるだろうか、と考えたことが、実はそれは障がいがあってもなくても同じだということに気づかされました。

ハンギングバスケット作りも、作業中に手が当たって容器を倒さないよう容器を固定するスタンドを作ったり、一つ一つの作業を前に出てきてもらって確認をしながら作ってもらったり、最初から作ることが難しい場合は、スタッフが事前に容器側面の植え込みをしておき、体験者には天部の植え込みだけしていただくなど、相手の目線に立ち、工夫することで、特別支援学校の生徒さんや高齢者施設の利用者さんにも楽しく体験していただき、達成感を味わっていただいています。「福」も「祉」も幸せの意。これからも園芸を通してお互いが幸せになれるような活動をしていきたいと思っています。



苔玉見本



高齢者施設でハンギングバスケットづくり



苔玉用ケト土の計量

久留米の活動 15年を振り返って 栗木トシ子

緑豊かな耳納連山の裾野に広がる自然に「癒されに来てほしい」と、2011年から田主丸市の花好き10数軒で「田主丸オープンガーデン」を開催し、趣のある自慢の庭を一般公



開しています。毎年たくさんの方々が訪れてくれます。更に4年前から、地域の活性化にもなるのではないかと近隣50軒程が、子どもから大人までを対象とした農業体験滞在型(民泊)・グリーンツーリズムを展開しています。

九州、関東地区からの修学旅行や自然学習など小・中・高等学校の生徒さんの授業の一環として、東南アジアなど海外の学生たちも受け入れをしています。生徒さんが安心して学習していただく為に食事や宿泊などを通して農業(家)での生

活を体験。又、受け入れ先の家族と同じ様に生活します。

庭木の剪定をはじめ、サクラやイチジクなど季節ごとに果樹の収穫体験、畑で育つ野菜の収穫などをしてもらい、夕飯の用意を子どもたちと一緒に作ります。

最近は食物アレルギーの子どもさん達も多いので、私たちも勉強して食材の選定には特に気を付けています。民泊に訪れたご家族や子どもたちが帰るときには「楽しかったです」「また来たいです」この言葉に、毎回楽しく交流しながら頑張っています。

学校の先生からは民泊後「子どもたちの顔が変わり、イキイキしています」と嬉しいお手紙をいただきます。

(グリーンツーリズムとは農山漁村地域において自然、文化、人々との交流を楽しむ滞在型の余暇活動です)



民泊先で水遊びを楽しむ子どもたち



畑見学では畑の広大さに驚かれます

「新聞紙とセメントで作るエコ鉢(植木鉢)の取り組み」 辻 和広

私が「新聞紙とセメント」の素材に出会ったのは2006年7月に出版された大野 月子 著「魔法の鉢づくり(出版社/小学館クリエイティブ)」でした。この本に感銘を受け「これを実践してみよう!」と、2008年4月から勤務していた知的障がいのある生徒が通う特別支援学校 高等部で、1年6ヵ月の準備期間を経て、工芸 作業学習で新聞とセメントを使った「エコ鉢」に取り組み始めました。



最初はセメントが上手に固まらず形もバラバラで苦労の連続でしたが、徐々に完成度も増し、コケ玉の受け皿を中心に製作しました。受け皿とコケ玉の相性も良く、初年度には生徒たちと試行錯誤しながら500枚の受け皿を完成させました。

本校の学園祭では陶工科、木工科など科ごとの販売活動があります。

私が担当していた工芸科の生徒8名とエコ鉢づくりに取り組み、2年目から受け皿とコケ玉のコラボ製品「こけ玉くん(写真参照)」の販売を始めました。生徒たちが一生懸命に作ったこけ玉くんは、見る人が「笑顔になる!」と、販売当初からとても人気で50個が30分で完売!しました。



年々これを目当てに地域の方々が来校され、学園祭開始前から長蛇の列ができ、学校の名物として喜ばれる製品となりました。

その後も10年間、工芸科では様々な形にも取り組み、現在までに約15,000個は作ったのではないのでしょうか。一冊の本との出会いから始まった挑戦でしたが、紆余曲折しながらの「モノづくり」は生徒たちの成長を感じると共に、教育に携わる者として学ぶことも多く充実した日々でした。

障がいのある生徒の就労への意識付けとして「新聞紙とセメント」を使ったエコ鉢やエコ皿作りはとても良い素材だと思います。現在は小規模ですが、製作を継続しています。そしてこれからも続けて行きたいと思っています。

事務局からのお知らせ

▶ 園芸福祉ふくおかネット定例会

- 毎月/第3土曜日 13:30~15:30
- ところ/福岡市NPO・ボランティア交流センター「あすみん」天神クラス4階
事業活動報告と計画、会員の活動状況、園芸福祉活動の情報交換、作品紹介など。
- お気軽にご参加ください。

▶ 「園芸福祉の庭」定例作業日

- 定例作業/第2月曜日・最終日曜日
10時~12時（6月~10月は9時~11時）
- ところ/アイランドシティ中央公園
園芸福祉の庭（福岡市東区香椎照葉4丁目）
活動内容は花壇の維持管理（花がら摘み、除草、花苗植込み・撤去、水やり、施肥など）。
作業後は茶話会。活動近況や花の育て方・土づくり、園芸福祉に関するプチ勉強会など。
- 豪雨や気象災害などが予想されるときは中止、次週に変更です。（小雨決行）

▶ 入会手続きのご案内

- 入会を希望される方は事務局（下記掲載）にご連絡下さい。その後下記の口座に年会費2,000円をお振り込み頂き、入金確認後に入会となります。
- 活動を一緒にされているお仲間やお友だちなどで、まだ園芸福祉ふくおかネットの会員でない方がいらっしゃいましたらお気軽にお誘いください。
- お振り込み先/ 西日本シティ銀行 小笹支店
店番 222 普通預金
口座番号 1025817
園芸福祉ふくおかネット 代表 谷口 博隆



● 園芸福祉ふくおかネット事務局 ●

〒810-0033 福岡市中央区小笹 1-9-25

TEL : 090-8626-1586 (黒瀬)

FAX : 092-521-6247

E-mail : engeifukusi.fukuoka@hya.bbiq.jp

URL : <https://www.engeifukusi-fukuoka.net/>

花便り 第51号 令和元年 5月18日

編集・発行/ 園芸福祉ふくおかネット